

令和7年度 評価計画及び自己評価

(計画・中間・最終)

阿賀中学校区 校番 8 学校名 呉市立阿賀小学校

a 学校教育目標	自ら伸びるとともに伸びる	b 経営理念 ミッション・ビジョン	(ミッション)(学校の使命) ・地域との協働のもと 主体的・自立的に生きる子どもを育成する。 (ビジョン)(将来の学校像) ・阿賀学園地域教育連携協議会(アカデミア)の活動を生かして、「活気ある楽しい学校」「保護者・地域から信頼される学校」「やりがいのある学校」を目指す。
----------	--------------	----------------------	---

c 中期経営目標を踏まえた現状(進捗状況)と今年度の重点	阿賀中学校区は研究テーマを「主体的に学び、ともに伸びようとする児童生徒の育成」と設定し、小中の教職員が一丸となり研究を進めてきている。その成果として、子ども達の実態や多様性を共有し、個への働きかけや支援の充実を図り、「居場所ひろげ・ふかめ」と深化することができた。個の支援の充実を図りながら教育実践を積み重ねた結果、阿賀中学校区の授業スタイルは確立し、SSR等も効果的に活用することができている。今年度は児童一人一人の実態に応じて、授業や生活の中で特別支援教育の視点を生かしたコミュニケーションを行いながら、「居場所ひろげ・ふかめ」のさらなる発展に取り組んでいきたい。 めざす子ども像 自分の考えをもつ子ども・最後までやりきる子ども・認め合い励まし合う子ども
------------------------------	---

育成を目指す資質・能力	知識・技能 思考力・判断力・表現力 自らへの自信 思いやり・感謝・貢献
-------------	--

評価計画(中期経営目標を設定してから 1・2・3 年目)					自己評価						
重点	d 中期(3年間)経営目標	e 短期(今年度)経営目標	f 目標達成のための方策(こんなことをして達成します)	g 指標(効果を見とる目安)	h 目標値	上半期			下半期		
						i 達成値	j 達成度	k 評価	i 達成値	j 達成度	k 評価
***	学力の向上(確かな学力の育成)	① 基礎基本の学力の定着を図る。	・学力調査等の課題を踏まえ、指導の重点を定める。 ・「ドリルタイム」を年間計画に従って継続して取り組む。 ・漢字・計算の反復練習や課題克服のための学習を実施する。 ・個の課題に応じて、個別指導を行う。	・全国学力・学習状況調査において正答率30%未満、無回答率を「0」をめざす。 ・標準学力調査で全国平均より全校平均がプラス18点以上をめざす。(※各学年プラス3点以上) ・国語と算数の単元テストの平均点	95%	81%	85%	B	—	—	—
・授業改善を進める。 ・①問いづくり ②考える時間が確保された授業設計 ③自在な対話の場面設定 ④発展的ふりかえりの時間を確保する。			・児童の授業満足度(よくわかる)	100%	—	—	—	0%	0%	—	D
				85%	84%	99%	B	84%	99%	B	
				90%	93%	103%	A	94%	104%	A	
**	自尊感情の高揚(自己指導能力の育成・生きる力の育成・安全安心な風土の醸成)	① 思いやりの心を育てる。 ② コミュニティスクールによる地域との協働 ③ 「自分の命は自分で守る」力の育成	・生活目標を示し、「返事・あいさつ・くつそろえ」を点検させる。 ・掃除を無言で行う。	・「返事・あいさつ・くつそろえ」の自己評価	90%	89%	99%	B	89%	99%	B
・子どもの心に寄り添った働きかけ、縦割り班活動やクラスチャレンジ、AJV等の活動の充実を図る。 ・友達のよさを見つけたら、「ほかほか言葉」を使ったりする。 ・いじめを許さない環境づくりを行う。			・「学校が楽しい」の自己評価 ・「自分にはよいところがある」の自己評価 ・将来の夢や目標をもっている。	85%	86%	101%	A	87%	102%	A	
・学校運営協議会を年間4回開催する。			・「阿賀のまちが好きである」児童の割合 ・「阿賀のまちをよりよくするために何かしてみたい」児童の割合	90%	88%	110%	A	93%	103%	A	
・「呉市防災教育の手引き」等を活用した授業づくり ・安全指導・避難訓練の改善			・災害時に避難する場所や避難の仕方について理解している児童の割合	100%	94%	94%	B	96%	96%	B	
*	基本的生活習慣の定着と体力の向上	健康な生活を増進させる。 体力の向上を図る。	・学級担任、養護教諭、栄養教諭が連携した食に関する授業や食育朝会を行う。 ・定期的にあがっ子生活カードで点検し、保護者啓発を促す。	・「早ね・早おき・朝ごはん」の達成率(毎日朝ごはんを食べる。)	97%	95%	98%	B	95%	98%	B
・体育授業の充実、「阿賀小準備運動」・「あがっ子運動」を実施する。 ・体力テストに向けて体力アップキャンペーンを実施する。			・新体力テスト(50m走、ちよう座体前屈、反復横とび)が県平均を上回る。	65%	28%	43%	D	61%	94%	B	

業務改善	やりがいのある学校づくり	児童生徒と向き合う時間を確保する。	・会議時間、研修時間等を短縮する。	児童生徒と向き合う時間が確保されていると感じる教員の割合	80%	92%	115%	A	84%	105%	A
		長時間勤務を削減する。	・平日18時30分退校、週1日17時退校を徹底する。	時間外勤務が月45時間を超えない教職員の人数	96%	64%	67%	C	91%	94%	B

令和7年度 結果の分析及び今後の改善策(案)

(中間 **最終**)

阿賀中学校区 校番 8 学校名 呉市立阿賀小学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(今年度) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
***	学力の向上 (確かな学力の育成)	<p style="text-align: center;">(貫)</p> 基礎基本の学力の定着を図る。	<p>●標準学力調査は、国語(2~6年)、算数(全学年)とともに全国平均より全校平均が下回った。</p> <p>●単元テストの平均点は、国語86.9% 算数82.1%であった。</p> <p>○授業満足度は、93.4%だった。ワクワクAGAろう会の開催で、国語・算数などの教材研究の仕方を全体で学び進めることができた。また、それを受けて、板書の仕方や図の使い方など学年で教材研究することができた。</p> <p>月に1回、教材研究の研修を行ったり、各学年で課題となる単元を分析して授業や宿題等で取り組んだりしてきたが、結果は指標を下回った。教材研究の研修の在り方を考えたり、個別の学力補充を行ったりする必要がある。また、Qubenaの活用の仕方を改善する必要もある。</p>	<p>○友達の意見を聞き合う学習を意図的に取り入れることで、授業が楽しいと感じる児童が増えたので、協働的な学習方法を授業でより取り入れていく。</p> <p>●授業満足度とテスト等の結果に開きがあるので、「視覚化」「焦点化」「共有化」をもとに、ワクワクAGAろう会の内容を見直し続けて、阿賀小全体で授業改善を行う。</p> <p>●5年生の学力補充を週2日行う。(算数科を中心に)</p> <p>●毎週水曜日の放課後に、1~3年生の個別の学力補充を行っていく。</p> <p>●ドリルタイムで行っているQubenaの誤答を分析して、その週の授業や宿題等で再度取り組む時間を設けていく。</p>
**	自尊感情の高揚 (自己指導能力の育成・生きる力の育成・安全安心な風土の醸成)	<p style="text-align: center;">(貫)</p> 規範意識を高める (貫) 思いやりの心を育てる。 コミュニティスクールによる地域との協働 「自分の命は自分で守る」力の育成	<p>○●「あいさつ(学校)、くつそろえ」は、目標値を上回ったが、「返事、あいさつ(学校)、くつそろえ」とも、前期より数値が下回った。また、児童と教員との意識にも差が見られる。</p> <p>2学期の生活目標は、児童や教員からのアンケートにより、項目を設定した。委員会活動により生活目標への意識を高めたり、達成度が低かったものについては困難さを分析し、次月に少しレベルを上げた目標を設定して継続して取り組ませたが、「返事・挨拶・靴揃え」は、1学期に達成したと安易にとらえ、継続した細かな指導をしきることができなかった。</p> <p>○「学校が楽しい、将来の夢や目標をもっている」も目標値を上回った。</p> <p>●「自分にはよいところがある」という児童は目標値が下回ったとともに、前回よりも数値が下がった。</p> <p>○「阿賀の町がすき・何かしたい」の2つとも目標値を上回った。</p> <p>○●災害時に避難する場所や避難の仕方について理解している児童の割合は、96%と目標値に達しなかったが、前期よりも数値が上がっている。</p> <p>アガデミアー斉訓練、予告なしの訓練等を行った。予告なし訓練は、2回行うことで、自分たちの行動を振り返ることができた。</p>	<p>●3学期は、「返事・挨拶・履物そろえ」はもちろんのこと、児童の落ち着いた生活づくりを職員が常に意識し、暮会やロイロノートを活用して指導し続けることができるようにする。</p> <p>○●「学校が楽しい」という児童は増加したものの「自分には良いところがある」「自分のことが好きである」の数値が少し低いので、引き続き学校秩序を高める取組を行いつつ、学校生活で見られた良い場面を紹介する等して自己肯定感を高められるような手立てを講じていく。また、SSRの活用やSC・SSWと密な連携を図り、児童にあった「居場所」を見つける取組を今後も継続して行っていく。</p> <p>○いじめプロジェクトチームでの活動を復活させたり、いじめアンケートで積極的に認知したりすることで、安心して過ごせる風土の醸成を図った。継続して取組む必要がある。</p> <p>○小中合同のあいさつ運動を地域で行うだけでなく、あいさつ運動に向かうまでにごみ拾いを行うことで、地域のために活動する意識を高めることができた。しかし、高学年に限ることなので、低・中学年の取組も考えていきたい。</p> <p>・コミュニティスクールの中で、地域とともに活動ができる内容や防災教育を、生活科や総合的な学習の時間を軸に計画を立てた。3学期からできることを少しでも取組み、自分たちの住む「阿賀」への愛着や防災意識を高めていく。</p> <p>・防災教育については、通信で避難訓練の様子を知らせたり、土砂災害携帯マニュアルの確認(毎月)をしたりする等、引き続き意識付けをしていく。</p>
*	基本的な生活習慣の定着と体力の向上	健康な生活を増進させる。 体力の向上を図る。	<p>●毎日朝ごはん(肯定的評価)は94.8%であり、前期より0.1%低下した。</p> <p>●生活アンケートでは、「毎日朝ご飯を食べている」児童は85.1%だった。</p> <p>○新体力テストでは、「50mは58.3%、反復横跳びは91.6%、長座体前屈は33.3%」であった。目標値には達していないが、前期と比べると、かなり伸びが見られた。</p>	<p>・食育朝会は計画通り実施することができた。今後はレシピ紹介だけでなく、朝ごはんの大切さ等を伝えていくとともに、集団指導と共に欠食児童への個別指導を担任と連携し実施する。</p> <p>・瞬発力や柔軟性が身に付くよう、運動委員会でキャンペーンをしたり、毎朝の体力アッププログラムの徹底を図ったことで、前回よりかなりの伸びが見られた。</p> <p>・冬休みの自主として、柔軟をするよう声掛けを行っていく。また、運動委員会でキャンペーンをしたり、毎朝の体力アッププログラムの徹底を図ったりする。</p>
業務改善	やりがいのある学校づくり 長時間勤務を削減する。	児童生徒と向き合う時間を確保する。	<p>○●児童と向き合う時間が確保されていると感じる教員の割合は、84.0%、月45時間を超えない教職員の人数の割合は、91.0%であった。</p> <p>●時間外勤務月45時間を超過した教職員は、7月6%、8月0%、9月10%、10月24%、11月3%であった。行事等があると、業務が忙しくなり45時間を超過する教員が増えるので、計画的な取組が必要となる。</p>	<p>・仕事の優先順位を明確にしたり、焦点化したりすることで、自分たちで決めた退校時間を守れるようにする。</p> <p>・行事等の前には、ぎりぎりまで仕事をしなすむように、余裕をもって計画を立てる。</p>

令和 7年度 学校関係者評価及び改善策

(中間・最終)

阿賀中学校区 校番 8 学校名 呉市立阿賀小学校

評価項目	※評価	理由・意見
目標、指標の設定の適切さ	A	阿賀中学校区の研究テーマに即した今年度の重点目標を掲げ、その達成に向けた適切な設定となっている。 児童の学力・体力・生活力に取組む目標・指標となっており評価できる。
目標達成のための方策の適切さ	A	中期経営目標、短期経営目標を達成すべく具体的な方策が設定されている。 児童に寄り添った様々な方策を行っており、目標達成に向けた積極的な取組は高く評価できる。 焦点化することで、結果が様々なところに現れることを期待している。
自己評価の結果の分析の適切さ	A	目標値の達成、あるいは未達成の原因をしっかりときめ細かく把握・分析した上での評価となっている。 目標達成のために、児童や教員からアンケートをとるなど、主体的に取組ませるための工夫がなされている。 適切な評価結果の分析ができています。 学力向上・自尊感情の分析をより具体的に深めることで、学級経営でかなりの部分がよくなると感じる。
今後の改善策(案)の適切さ	A	学校を取り巻く環境の変化や児童の現状を把握し、丁寧な結果分析を踏まえた具体的な改善策となっている。 本年度の重点課題として、「学力の向上」に取組まれた結果、授業満足度は高い数値となった。児童の実態によっては、厳しいこともあると思われるが改善策が着実に実行されることを期待している。 今年度の最大の課題がどれか分かるようにすると、より分かりやすい。
その他		今の時代あまりにも多くのことを要求されすぎているが、小学校時代には基礎学力の定着に重点をおいて、徹底していく必要を感じる。 「何に取組んだか」ではなく、「どう取り組んだか」伸びしろを評価していく必要がある。

※ 評価は、A(とても適切)、B(概ね適切)、C(あまり適切でない)、D(まったく適切でない)、N(分からない)

学校関係者評価を受けての今後の改善策	<p>学校長のリーダーシップのもと、学校運営協議会と連携しながら開かれた学校づくりが推進されている。学校協議会の場で教頭・主幹が学校の方針、取組を自信をもって発表している姿を見て、教職員が一丸となり素晴らしい学校経営ができていますと感じている。</p> <p>各家庭での生活習慣や躾が大切であり、保護者の協力と理解が今以上に必要だと感じる。</p> <p>阿賀地区の行事で市場の大きな行事は神田神社の祭で、地域の人たちと触れ合う唯一の機会だと感じる。祭を通して、阿賀の長い歴史を学び、地域の人と繋がりがアイデンティティを高めてほしい。</p>
--------------------	---